十勝毎日新聞

発行所
十勝毎日新聞社
〒080　帯広市東1条南8丁目
電話=編集㉒2121、広告㉓2323、総務・販売㉔2222
©十勝毎日新聞社 1985

札幌で航空宇宙シンポ

誘致の可能性十分

十勝から100人 意気込み印象付ける

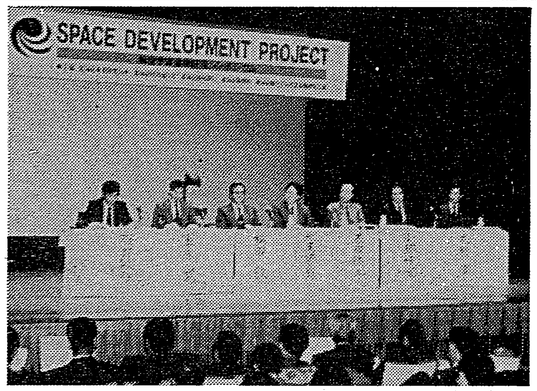
【札幌】航空宇宙産業シンポジウムが十一日午後、札幌市内の道新ホールで開かれた。北海道への航空宇宙産業基地誘致の可能性を探り合った結果、宇宙産業の将来上、また北海道の土地の広さ、イメージからみて「可能性は十分」との結論に達した。

同シンポジウムは、北海道東北開発公庫、道航空宇宙産業基地研究会議などが初めて企画した。最初に横路孝弘道知事が「道としても基地として発展するのを期待している」とあいさつ。保原充名大教授、田畑浄治宇宙開発事業団理事が基調講演、宇宙開発の重要性、可能性を強調した。

続いて、パネルディスカッションでは小林好宏北大経済学部教授が「本道は土地の広さはもちろん、イメージからみても航空宇宙産業基地に最適」、日本人初の宇宙飛行士、毛利衛宇宙開発事業団宇宙実験搭乗部員は「北海道は日本全国のフロンティア。宇宙のイメージにはぴったりだ」と提言した。

また石井敏弘科学技術庁宇宙企画課長、松田敬宇宙開発事業団ロケット開発副本部長、富士原寛通産省宇宙産業室開発振興班長、秋葉鎮一郎文部省宇宙科学研究所教授、黒田隆二NEC理事は「北海道に基地の可能性はある」としながらも「打ち上げ場ばかりを考えずに、宇宙開発のどの点、例えばエネルギー回収基地、通信・放送などの産業基地―など、どれを目指すか明らかにすべき」と課題を投げかけた。

なお、この日集まった約六百人のうち、十勝関係者は大樹町の五十七人を含め百人に上った。あいさつに立った横路知事はわざわざ大樹町の名前を上げ、熱しさをたたえるなど、関係者には十勝が基地誘致にかける意気込みを強く印象づけていた。



航空宇宙産業基地の可能性を探った航空宇宙シンポ